

JSL 日本語指導担当者講座(1)

文部科学賞 平成 20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「イチから学ぶ、外国人児童生徒と日本語指導」研修会

■目的: 本研修の目的は、外国人児童生徒の指導に携わる教員等が、外国人児童生徒教育や日本語指導、JSL カリキュラムなど、外国人児童生徒を指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。

具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象: 日本語指導を担当している教員等 (日本語学級担当教員、学級担任など)

■受講者数: 40 名

■受講料: 無料

■開催期日: この研修は、3 回の時期に分けて計 6 日間行います。

[1]基礎研修 平成 20 年 5 月 9 日(金)~5 月 11 日(日)(計 3 日間)

[2]フォローアップ研修 A 平成 20 年 8 月 4 日(月)~8 月 5 日(火)(計 2 日間)

[3]フォローアップ研修 B 平成 21 年 2 月 7 日(土)(計 1 日間)

■実施場所: 東京学芸大学小金井キャンパス

[1] 基礎研修

第 1 日目(5 月 9 日:金)

テーマ: 先輩の日本語教室をのぞこう

目標: 日本語指導教室づくりのイメージをつかむ

10:15 新宿区立大久保小学校集合

10:30~10:50 日本語指導教室等の紹介、質疑

■講師 善元 幸夫先生(新宿区立大久保小学校)

野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

10:50~11:35 3 校時授業見学

11:40 一時解散

13:30 北区立西ヶ原小学校集合

13:40~14:40 5 校時授業見学

14:40~15:30

日本語指導教室等の紹介、質疑

■講師 江連 成子先生(北区立西ヶ原小学校)

繭山 紀子先生(北区立西ヶ原小学校)

15:30 解散

第 2 日目(5 月 10 日:土)

テーマ: 日本語指導教室、どうやって運営しよう?

目標: 日本語指導教室づくりのイメージレポートを作成する

9:05~受付

9:30~12:00<講義>日本語指導担当の役割と指導上の留意点

・講師から、日本語指導担当としての自己の体験等を、それぞれの観点から報告してもらう。

■講師

日本語指導教室の立ち上げ：近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

多数在籍校での日本語指導教室の取り組み：鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

少数在籍校での日本語指導教室の取り組み：黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

センター校(巡回型)での日本語指導の取り組み：山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

中学校での日本語指導教室の取り組み：米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

・日本語指導担当の役割と指導上の留意点について講義を行う。

■講師 佐藤郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

13:00～16:00<演習>日本語指導教室の運営のコツをつかむ

・前半は、グループに分かれ、受講者各自が現在抱えている日本語指導教室の運営上の課題について、グループ討議を行う。後半の全体討議に備え、グループ内で出された課題とそれに対して考えうる改善策や解決策についての意見をまとめておく

(14:30～14:40 休憩)

・後半は、グループ討議の結果を報告しながら、全体討議を行う。他のグループの意見や実践例を参考にしながら、各自、課題に対して具体的な改善策や解決策のヒントをつかむ

・実践例の紹介

日本語指導教室の環境整備と掲示物の工夫：黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

ステップアップカードと指導連絡表(日本語担当者間)の活用：鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

■講師 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)

米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

伊藤 哲也先生(前豊田市立西保見小学校)

佐藤 裕之先生(川崎市総合教育センター)

佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

16:15～17:15 <実習>日本語指導教室の経営カルテの作成

・演習を受けて、グループ討議や全体討議によって得たヒントをもとに、各自、自分の日本語指導教室の課題の所在と運営方法について、経営カルテないしイメージレポートを作成する

■支援者 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)

米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)

第3日目(5月11日:日)

テーマ:日本語指導、どうやって教えよう?

目標:日本語指導の指導個票を作成する

9:05～受付

9:30～10:10<講義>日本語指導の方法と留意点

■講師 齋藤 ひろみ先生(東京学芸大学教育学部)

10:15～12:30<見学>模範授業見学

・前半は、初期指導、JSL 教科指導(国語、算数)の模範授業を行う

・模範授業終了後、JSL に関する質疑応答を行う

■講師 初期指導: 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

JSL 教科指導(国語): 今澤 悌先生(甲府市立琢美小学校)

JSL 教科指導(算数): 三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)

講義・質疑応答: 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

13:30～15:30<講義・実習>日本語指導の指導個票を作成する

・日本語指導の指導個票の意義と作成方法について講義を行う。

・グループに分かれ、支援者からの指導・助言に基づき、日本語指導の指導個票の作成方法等について、各自、自らの指導事例を題材にして指導個票の作成を行う。

■講師 山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

■支援者 近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

今澤 悌先生(甲府市立琢美小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)

米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

15:45～16:15 <事後課題の説明>日本語指導案と教材の作成

・事後課題である日本語指導案と教材の作成について、説明を行う

■講師 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

JSL 学校管理職講座

「イチから学ぶ、外国人児童教育と日本語指導」研修会 学校管理職講座

■目的:

本研修の目的は、JSL 実践をサポートしていく上で校内体制作りのキーマンとなる学校管理職が、外国人児童生徒教育や日本語指導に関する基礎的な知識と理解を深めることです。

具体的には、外国人児童生徒教育を進めていく上での学校経営上の留意点、他の教員に対する指導助言のあり方や啓発の方法、保護者や関係機関との連携のあり方などについて、知識と理解を深めます。併せて、日本語指導教室や日本語指導担当の現状を知ることによって、外国人児童生徒教育の指導環境を整備していく上での管理職としての自らの役割について、理解を深めます。

■受講対象:外国人児童生徒が在籍する学校の校長、教頭、副校長等

■受講者数:20名

■受講料:無料

■開催期日:平成20年5月9日(金)～5月10日(土)(計2日間)

■実施場所:東京学芸大学小金井キャンパス

■学校管理職講座 プログラム

【第1日目】(5月9日:金) 目標:外国人児童生徒教育を進める上での学校管理職の役割を知る

10:15 新宿区立大久保小学校集合

10:30～10:50 日本語指導教室等の紹介、質疑

- 講師 善元 幸夫先生(新宿区立大久保小学校)
- 野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

10:50～11:35 3校時授業見学

11:40 一時解散

13:30 北区立西ヶ原小学校集合

13:40～14:40 5校時授業見学

14:40～15:30 日本語指導教室等の紹介、質疑

- 講師 江連 成子先生(北区立西ヶ原小学校)
- 繭山 紀子先生(北区立西ヶ原小学校)

15:30 解散

【第2日目】(5月10日:土) 目標:日本語指導教室をめぐる経営課題を知り、対応策を検討する

9:05～ 受付

9:30～11:30 <講義>日本語指導担当の役割と指導上の留意点

- ・日本語指導担当としての自己の体験等を、それぞれの観点から報告してもらう。

■講師

日本語指導教室の立ち上げ: 近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

多数在籍校での日本語指導教室の取り組み: 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

少数在籍校での日本語指導教室の取り組み: 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

センター校(巡回型)での日本語指導の取り組み: 山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

中学校での日本語指導教室の取り組み: 米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

11:30～12:00 <講義>外国人児童生徒教育に関する学校経営上の課題

- ・日本語指導担当の仕事をめぐる課題の整理を行い、学校経営上の対応策について講義を行う。

■講師 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

13:00～14:30 <講義>外国人児童生徒教育における学校管理職の役割

- ・学校全体として外国人児童生徒教育やJSL実践を行っていく上で、学校管理職に求められる役割や学校管理職が配慮する事項等について、講義を行う。

■講師 伊藤 哲也先生(前豊田市立西保見小学校)

近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

佐藤 裕之先生(川崎市総合教育センター)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

14:40～16:00 <演習>日本語指導教室の運営のコツをつかむ

- ・日本語指導担当者講座に合流して、全体討議を行う。他のグループの意見や実践例を参考にしながら、各自、日本語指導教室が抱える課題に対して、具体的な改善策や解決策のヒントをつかむことを目指す。

・実践例の紹介

日本語指導教室の環境整備と掲示物の工夫: 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

ステップアップカードと指導連絡表(日本語担当者間)の活用: 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

■講師 鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)
米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)
近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)
伊藤 哲也先生(前豊田市立西保見小学校)
佐藤 裕之先生(川崎市総合教育センター)
佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)
見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター)
臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

16:15～17:15 <実習>外国人児童生徒教育に関する自校の学校経営課題Mapの作成

・受講者は、全体討議の結果を踏まえ、外国人児童生徒教育やJSL実践を行う上で、勤務校にいかなる問題や課題が存在するのかを考え、勤務校の問題Mapを作成する。その際、問題や課題を抽出するだけでなく、問題の原因や課題解決の糸口なども記入する。

■支援者 伊藤 哲也先生(前豊田市立西保見小学校)

近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

佐藤 裕之先生(川崎市総合教育センター)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

第29回 海外子女教育セミナー

「転換期にたつ海外子女教育」

近年、在外教育施設をとりまく状況は、大きく変わりつつあります。今年度のセミナーでは、現状を踏まえた上で、どのような教育実践を展開していけばよいのか、実践に役立つ視点を提示していきたいと思えます。午前中は、まず、文部科学省国際教育課海外子女教育専門官の坂本淳一氏より、海外子女教育に関する国内外の状況について、施策を中心にお話いただきます。次に、東京学芸大学国際教育センターの佐藤郡衛教授より、状況の変化を踏まえた上で、海外子女教育の新たな展開に向けて、特に実践の側面からお話させていただきます。午後は、昨年海外から帰国された4名の先生方から、在外教育施設における実践を報告していただきます。その後は、日本人学校への派遣希望者と補習授業校の希望者に分かれて、分科会を行います。海外での教育実践について参加者で考えたり、海外での生活全般に関する質問を受け付けます。この機会にぜひ、ふるってご参加ください。

■日時：平成20年6月14日(土) 10:00～16:45

■会場：東京学芸大学合同棟1階大教室

■対象：在外教育施設派遣教員登録者、これから在外教育施設に派遣を希望する教員、及び海外子女教育に関心をもつ方

■主催：東京学芸大学国際教育センター

■プログラム

総合司会：吉谷武志(東京学芸大学 国際教育センター教授)

9:30 会場、受付開始

10:00～10:10 開会のあいさつ 加藤祐司国際教育センター長挨拶

趣旨説明 見世千賀子(東京学芸大学 国際教育センター講師)

10:10～11:00 講演「転換期にたつ海外子女教育の現状」

坂本淳一(文部科学省国際教育課海外子女教育専門官)

11:05～11:50 講義「海外子女教育の新たな実践の展開に向けて」

佐藤郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

11:50～13:00 昼食

13:00～15:00 実践報告（質疑応答を含め、おひとり30分ずつ）

細井 宏一（東京学芸大学附属大泉小学校教諭、前アブダビ日本人学校教諭）

加藤亜紀子（愛媛県砥部町立宮内小学校教諭、前バンコク日本人学校教諭）

森本 孝（兵庫県小野市立小野南中学校校長、前ワルシャワ日本人学校校長）

長山 正宏（茨城県大洗町立祝町小学校校長、前ロンドン補習授業校校長）

15:00～15:15 休憩

15:15～16:45 分科会（日本人学校と補習授業校の2グループに分かれて）

(1)日本人学校分科会

ファシリテーター 森本 孝（兵庫県小野市立小野南中学校校長）

講師 細井 宏一（東京学芸大学附属大泉小学校教諭）

加藤 亜紀子（愛媛県砥部町立宮内小学校教諭）

進行 見世千賀子（東京学芸大学国際教育センター講師）

(2)補習授業校分科会

ファシリテーター 長山 正宏（茨城県大洗町立祝町小学校校長）

進行 佐藤 郡衛（東京学芸大学国際教育センター教授）

16:45 閉会

JSL 日本語指導担当者講座(2)

文部科学賞 平成20年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「イチから学ぶ、外国人児童生徒と日本語指導」研修会

■目的：本研修の目的は、外国人児童生徒の指導に携わる教員等が、外国人児童生徒教育や日本語指導、JSL カリキュラムなど、外国人児童生徒を指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。

具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象：日本語指導を担当している教員等（日本語学級担当教員、学級担任など）

■受講者数：40名

■受講料：無料

■開催期日：この研修は、3回の時期に分けて計6日間行います。

[1]基礎研修 平成20年5月9日(金)～5月11日(日)(計3日間)

[2]フォローアップ研修 A 平成20年8月4日(月)～8月5日(火)(計2日間)

[3]フォローアップ研修 B 平成21年2月7日(土)(計1日間)

■実施場所：東京学芸大学小金井キャンパス

[2] フォローアップ研修 A

《事前課題フォーマットダウンロード》

●[日本語学習指導案 枠\(初期指導用\)](#)

●[日本語学習指導案 枠\(JSL 教科指導用\)](#)

【第4日目】(8月4日:月)

テーマ：JSL 指導にチャレンジしよう[1]

目標：日本語指導案と教材を改善する

9:05～ 受付

9:40～10:30 <講義>JSL カリキュラムについて知る

・JSL カリキュラムとはどのようなものか、その目的や指導内容、指導上の留意点などについて講義を行う。

■講師 佐藤 郡衛

(東京学芸大学国際教育センター教授、JSL カリキュラム作成協力者会議長)

10:30～10:45 休憩

10:45～12:30 <実習>日本語指導案と教材を改善する[1]

・受講者をグループに分け、グループごとに、基礎研修の事後課題として作成した日本語指導案と教材について、受講者相互に内容の確認と意見交換を行う。各自、指導案や教材の作成上で工夫した点や難しかった点などを報告しあい、改善案について議論する。

・支援者は、それぞれグループを1つ担当し、担当グループの受講者が作成した指導案と教材の改善に向けて、指導・助言を行う。

■支援者 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

高橋 理恵先生(豊島区立池袋小学校)

川村 朝子先生(前新宿区立大久保小学校)

野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

櫻井 敬子先生(浜松市立遠州浜小学校)

鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)

佐々木 稔先生(京都教育大学附属桃山中学校)

米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

松本 一子先生(愛知淑徳大学)

佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

12:30～13:45 昼食

13:45～15:30 <実習>日本語指導案と教材を改善する[2]

15:45～17:00 <演習>日本語指導案と教材の改善結果を発表する

・グループごとにグループ討議の結果を全体に向けて発表する。また、各グループを担当した支援者から指導講評を行う。

・グループ討議や全体討議を踏まえて、改めてJSL カリキュラムについて質疑応答を行い、日本語指導案や教材を作成する上での留意点について、理解を深める。

■支援者 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)

高橋 理恵先生(豊島区立池袋小学校)

川村 朝子先生(前新宿区立大久保小学校)

野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)

近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)

櫻井 敬子先生(浜松市立遠州浜小学校)

鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)

三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)
佐々木 稔先生(京都教育大学附属桃山中学校)
米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)
松本 一子先生(愛知淑徳大学)
佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)
臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

【第5日目】(8月5日:火)

テーマ:JSL 指導にチャレンジしよう[2]

目標:JSL カリキュラムの教科指導の方法を習得する

9:05～ 受付

9:40～11:30 <講義>日本語指導の教材例を知る

・支援者が作成した自作教材や受講者の持参教材の中から、いくつかの参考例を紹介し、教材作成の要点を解説する。

■支援者 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)
近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)
櫻井 敬子先生(浜松市立遠州浜小学校)
鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)
三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)
米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)

■講師 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

14:45～12:30 <実習>JSLカリキュラムの教科指導の方法を習得する

・受講者をグループに分け、グループごとに支援者の助言を得ながら、前日の実習で学んだことを踏まえ、演習課題の指導単元について指導案を作成する。また、指導内容に応じて、適した教材案も作成する。各自で作成した指導案について、グループ討議を行いながら改善していく。

・小学校班は JSL 算数、中学校班は JSL 英語の指導案作成を行う。

・各グループの受講者 1 名から、グループ討議の結果を報告しながら指導案作成の過程で学んだことを述べてもらう。

■支援者 黒須 陽子先生(宇都宮市立清原東小学校)

山中 文枝先生(神栖市立植松小学校)
川村 朝子先生(前新宿区立大久保小学校)
野口 恵美子先生(新宿区立大久保小学校)
近田 由紀子先生(浜松市立瑞穂小学校)
櫻井 敬子先生(浜松市立遠州浜小学校)
鍋田 弘美先生(浜松市立佐鳴台小学校)
三橋 道子先生(北九州市立光貞小学校)
米永 博光先生(北九州市立志徳中学校)
林 正太先生(東京学芸大学附属高等学校)
松本 一子先生(愛知淑徳大学)
佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター)
臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター)

12:30～13:45 昼食・休憩

13:45～15:30 <実習>JSLカリキュラムの教科指導の方法を習得する

15:30～15:40 休憩

15:40～16:20 <実習>JSLカリキュラムの教科指導の方法を習得する

第9回 外国人児童生徒教育フォーラム

子どもが見える、子どもが変わる ―子どものつまずきを解消していく教師と専門家との連携―

外国人児童生徒は、日本の学校生活の中で様々なつまずきを見せます。日本語が上手にならない、学習についていけない、学校生活になじめない、友達ができない、など様々です。これらは、どのような要因によって生じているのでしょうか。日本語力によるものなのか、文化的相違によるものなのか、あるいは他の要因によるものなのか。また、子どもの努力不足によるものなのか、子どもを取り巻く環境によるものなのか。その多様な要因とその背景に目を向け、つまずきを解消していくための支援のあり方を、とりわけ、教師と専門家との連携に焦点を当てて検討していきます。

■ 日時：平成20年10月4日(土)9:30～16:30(受付9:10～)

■ 場所：中野サンプラザ 8階 研修室1

(〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR中央・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分

■ 定員：90名

プログラム

開会の辞

ご挨拶 加藤 祐司(東京学芸大学国際教育センター長)

【第1部 子どものつまずきへの気づき】

●基調提案

9:40～10:00 子どものつまずきの多様な背景を知る 臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

●講演

10:00～12:15 子どものつまずきの実際

認知・学習支援の立場から：小池 敏英(東京学芸大学特別支援科学講座 教授)

発達支援の立場から：田熊 立(千葉県発達障害者支援センター 副センター長・臨床心理士)

(休憩 12:15～13:15)

13:15～13:50 認知発達の側面から：榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター 講師)

【第2部 適切な支援に向けた専門家・関係者との連携】

●事例報告

14:00～15:20 つまずきを克服していくための専門家・関係者との連携

事例1 国際学級担当者の立場から

野口 恵美子(新宿区立大久保小学校 教諭)

事例2 母語相談員の立場から

高橋 悦子(川崎市日本語指導等協力者、大和市外国人児童生徒教育相談員)

パネルディスカッション

●15:35～16:30 つまずきへの適切な支援に向けた専門家・関係者との連携のあり方

閉会

第5回 国際理解教育セミナー

第5回国際理解教育セミナー

■テーマ: 共につくる国際理解教育－学校外との連携でつくる豊かな授業－

■日時: 2009年1月31日(土) 13:00～17:00

■場所: 東京学芸大学 講義棟 S-302 教室

■定員: 40名

■対象: 国際理解教育、帰国・外国人児童生徒教育の研究者、実践者、教育関係者をはじめ、それらに関心のある方ならどなたでもかまいません。

■参加料: 無料

■講師: 佐藤倫子氏(エデュケーショナル・サポート・センター(Edu))

佐藤公孝氏(川崎市総合教育センター)他

【趣旨】

本セミナーは2004年に開始されて以来、今年で5回目を迎える。特に、日本社会の多文化化や世界的な教育課題としての市民性教育の追究など、学校を取り巻く社会の変化の中で、新しい国際理解教育の可能性を追求してきました。

本年度は、学校の中で国際理解教育を進める上で不可欠となる学校外との協働(外部資源の活用)に焦点を当て、授業作りのための連携について考えます。具体的には、国際理解教育の推進のために学校外から関わる外部者の目でも見た連携の方法、工夫、課題等について報告を受け、国際理解教育を豊かに実践する手立てを検討します。

【過去のテーマ】

第1回 国際理解教育の新機軸－多文化・地域・市民性－

第2回 国際理解教育のおもしろさはどこにあるか－改めて国際理解教育の可能性を問う－

第3回 国際理解教育の新局面－その実践の再考

第4回 多文化的パースペクティブの獲得に向けて－国際理解教育の新展開を考える

■詳細は追って更新いたします

プログラム

13:00-13:15

開式

司会 榊原知美(国際教育センター)

13:15-13:40 開会式・趣旨説明 吉谷武志(国際教育センター)

13:40-15:00 アイスブレイキング

14:00-15:00

提案 共につくる国際理解教育

佐藤倫子氏(エデュケーショナル・サポート・センター(Edu))

私が伝えたいと思っていること、ゲストティーチャーが伝えられること

学校との協働の事例

「共につくる国際理解教育」のために必要なこと(「ねらい×手法×リソース」)

佐藤公孝氏(川崎市総合教育センター)

「豊かな授業」ってどんなの？

私が考える豊かな授業

川崎市の国際理解教育の考え方

東京外国語大学の留学生

学生さんたちとの実践

学校外との連携でつくる豊かな授業づくりのために

15:00-15:20 休憩

15:20-15:50

指定討論

川崎誠司氏(東京学芸大学)

見世千賀子(国際教育センター)

15:50-16:50 一般質疑

16:50-17:00 総括

17:00 閉会

SL 日本語指導担当者講座(3)

文部科学賞 平成 20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業

「イチから学ぶ、外国人児童生徒と日本語指導」研修会

■目的: 本研修の目的は、外国人児童生徒の指導に携わる教員等が、外国人児童生徒教育や日本語指導、JSL カリキュラムなど、外国人児童生徒を指導する上で必要となる基礎的な知識を習得することです。

具体的には、外国人児童生徒の指導上の留意点、日本語指導の方法、JSL カリキュラムを実践するための環境作り、日本語指導教室の運営上の工夫点、学校内での他の教員等との連携関係の築き方などについて、知識と理解を深めることを目的とします。

■受講対象: 日本語指導を担当している教員等 (日本語学級担当教員、学級担任など)

■受講者数: 40 名

■受講料: 無料

■開催期日: この研修は、3 回の時期に分けて計 6 日間行います。

[1]基礎研修 平成 20 年 5 月 9 日(金)~5 月 11 日(日)(計 3 日間)

[2]フォローアップ研修 A 平成 20 年 8 月 4 日(月)~8 月 5 日(火)(計 2 日間)

[3]フォローアップ研修 B 平成 21 年 2 月 7 日(土)(計 1 日間)

■実施場所: 東京学芸大学小金井キャンパス

■日本語指導担当者研修 プログラム

[3] フォローアップ研修 B

【第 6 日目】(2 月 7 日:土)

テーマ: 日本語指導担当者のリーダーになろう

目標: JSL 実践の指導力をさらに磨く

8:40~ 受付

9:00~10:30 <講義・演習> JSL 指導の授業実践例から学ぶ

・JSL 指導の授業実践例のビデオを視聴し、指導上の工夫点について考える。

■講師 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

10:30~10:45 休憩

10:45~11:45 <演習> 受講者の JSL 指導の相互検討(1)

・受講者はグループ内の受講者の授業記録(映像)を見て、改善点等を指摘しあう。

・授業記録(映像)を見ながら、ワークシート(授業の改善点や課題など)をまとめる。

■支援者 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター教授)
臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)
見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師)

11:45~13:00 昼食・休憩

13:00~14:30 <演習> 受講者の JSL 指導の相互検討(2)

14:30~14:45 休憩

14:45~16:15 <全体討議> JSL指導の授業改善のポイントを考える

・各グループで議論した内容について、他のグループに向けて発表する。

・全グループから出された意見に対して、全体で JSL 指導の捉え方や改善点等について議論を行う。

■講師 佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授)

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授)

第 2 回 国際教育センターフォーラム

「文化間移動をする子ども ~異文化間教育研究の最前線~」

国際教育センターフォーラムは、国際教育センターの専任スタッフが現在進行中の研究について報告し、皆様とディスカッションをさせていただくことを目的としています。今回は、異文化間教育における研究の最新の動向と今後の方向性について、各スタッフがそれぞれの専門的立場からご報告します。多文化化する日本社会の中で、文化間を移動する子どもたちをめぐる状況は、今どこに向かいつつあるのか。そこで私たちが出来ることは何か。参加者の皆様と共に考えてみたいと思います。現場で教育実践に取り組まれている方、研究者の方、あるいはこうした問題に関心をお持ちの学生の方や一般の方もぜひご参加ください。

■主催:東京学芸大学 国際教育センター

■日時:2009年3月7日(土)13:20~16:30(受付13:00~)

■会場:中野サンプラザ 8階 研修室2

(〒164-8512 東京都中野区中野4-1-1 TEL 03-3388-1151)

最寄駅 JR中央線・総武線/東京メトロ東西線「中野」駅 北口より徒歩1分)

■定員:90名

プログラム

13:00 受付開始

13:20 開会式・趣旨説明

13:30 研究報告

分散型少数地域における多文化の子どもの教育の課題

吉谷 武志(東京学芸大学国際教育センター教授/異文化間教育学)

社会文化的文脈における子どもの知的発達

榊原 知美(東京学芸大学国際教育センター講師/発達心理学)

学校教育における文化的多様性への対応策:オーストラリアを事例として

見世 千賀子(東京学芸大学国際教育センター講師/比較・国際教育)

多文化の子どものを支える教師の力量形成

臼井 智美(東京学芸大学国際教育センター准教授/学校経営学)

アメリカに住む日本の子どものエスニシティと教育

佐藤 郡衛(東京学芸大学国際教育センター教授/異文化間教育学)

15:10 休憩

15:20 討論

【コメンテーター】 塘 利枝子（同志社女子大学 現代社会学部教授）

山本 登志哉（早稲田大学人間科学学術院教授）

16:30 閉会

第1回「つなぐ」シンポジウム

第1回「つなぐ」シンポジウム

■テーマ：多文化の子どもをつなぐ「場」づくりをめざして

—学校から、地域から、学びの協働へ—

■日時：2009年3月28日（土）13:00～17:00

■場所：東京学芸大学国際教育センター（合同棟）1階大教室

■定員：60名

■参加料：無料

■事例発表者：三田善雄氏（武蔵野市国際交流協会コーディネーター）

三原英喜氏（福岡市教育大学附属福岡小学校副校長、元香椎浜小学校校長）

小川陽介氏（武蔵野市立桜野小学校教諭）

■主催：東京学芸大学 国際教育センター

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター

【主旨】

多文化の子ども（外国に繋がる子どもなど）を受け入れる上で、学校と学校外（仮に地域とする）との協力を進めるための諸課題について検討します。今後、「つなぐ」という共通テーマでのシンポジウムを年1回程度開催していく予定です。様々な立場（教師・学校関係者、財団法人—NGO、NPO、国際交流協会等—、地域住民など）の方々と、ワークショップなどを通して共通の課題を見いだしながら、次年度以降におけるテーマ化をも想定して議論を深めていきます。

■詳細は[チラシ](#)をご覧ください。

プログラム

13:00 開会挨拶

13:10 趣旨説明 佐藤郡衛（国際教育センター）

13:30

アイスブレーキングとグループ分け

13:45 グループ別自己紹介

14:00 全体共有

グループでどのような課題認識がされていたのかを発表し全体共有する

14:15 休憩

14:30

発表—実践の現場から

(1) 教員が地域に出ていってつながり協働する「場」—MIA 教員ワークショップ—

三田善雄氏（武蔵野市国際交流協会コーディネーター）

小川陽介氏（武蔵野市立桜野小学校教諭）

(2) 学校内の地域の人々がつながり活動する「場」

—福岡市立香椎浜小学校日本語教室—

三原英喜氏（福岡教育大学附属福岡小学校副校長、元香椎浜小学校校長）

15:30 グループディスカッション

16:10 全体討議

16:50 閉会の挨拶 高橋正明(多言語・多文化教育研究センター)

WS コーディネーター 杉澤経子(多言語・多文化教育研究センター)

全体司会 吉谷武志(国際教育センター)